

県ジュニア美術展の絵画部門で特賞を受賞

### 熊谷有希子さん

(15歳・白根第一中学校3年・中央通)



特賞を受賞した作品

昨年は熊谷さんにとって、忘れられない年だった——『第十四回県ジュニア美術展』に出品した作品が、中学三年生の絵画部門で特賞に輝いたからである。審査員から「単に表面的に似ていることとは別に、その人の心の様子までも感じられるような、深く鋭い観察がすばらしい」との評価を受けた。

六年生の時から出品。毎年、奨励賞などを受賞してきた。「ジュニア展への出品資格が最後の年に、特賞をもらえるなんて、とても幸せです。両親や友だちも喜んでくれました」と話す熊谷さん。特賞に輝いた作品は、美術の授業中にかいた「自画像」。出品する前に、学校の文化祭の時に校内に展示。「すばらしい作品」と、先生方の注目を集めていた。「常にまじめに製作してました。このぐらいの年ごろでは、まじめな製作態度というのが大切なんです。みた目の良さだけでなく、心をこめてかいているから作品が生き生きしています。絵の具の使い方や下絵のデッサンも巧みです。それに自分の色もっているし、将来が楽しみです」と、指導する石塚先生。

小さいころから絵をかくことが好きだったと熊谷さん。「将来は美術の専門学校に進み、もっと絵の勉強をしたい。そして、美術に関係する仕事に就けたら最高です」と、胸をふくらませる。

## キャンバスに心うちまじむ

県ジュニア美術展のデザイン部門で特賞を受賞

### 内山るみ子さん

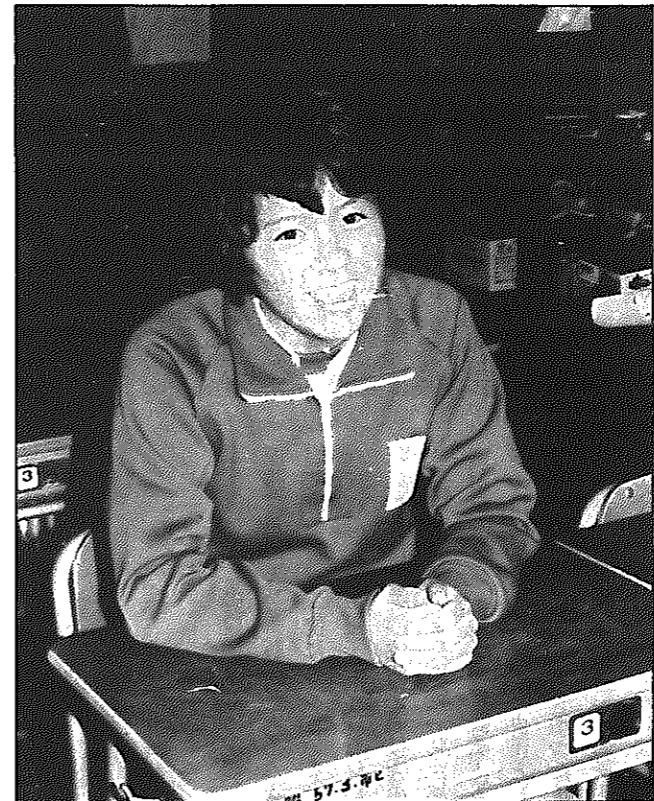
(12歳・戸石小学校6年・戸石新田)



特賞を受賞した作品

「賞をもらえるなんて考えてもいませんでした」と語る少女は、「第十四回県ジュニア美術展」のデザイン部門で、特賞を受賞した内山るみ子さん。ジュニア展の特賞が新聞紙上で発表された日の朝、「登校の途中に友だちから教えてもらったんです。その日は家の人もよく新聞を読まなかったから」と話す。両

親と一緒に表彰式に行き、賞状をもらった時にはじめてうれしさがわいてきたという。特賞をとった作品は、和紙をちぎって作った「はり絵」で、ふるさとの秋を表現したものだ。「一週間ぐらいで完成したんですが、木の枝を、本物のように見せることに苦労しました」と内山さん。審査員から「幹や枝のこげ茶の



濃淡が、木のゴツゴツした感じをよく表している。配色の美しい作品」との評価を。また、担任の渋川先生は「絵をかいたり、物を作ったりすることが好きなのですよ。絵はうまいですよ。一生懸命に製作していたので、何かの賞をとりたいと思っていました。特賞とは」と、うれしそう。「絵のほかにスポーツも好き」

と話す内山さんは、昨年、市内小学校親善水泳大会で、平泳ぎやクロールなど四種目に優勝。特に平泳ぎでは、これまでの大会記録を大幅に更新した。県少年少女水泳大会でも、五十メートル平泳ぎで六位に入賞。「将来は、画家かスポーツ選手になりたい」と、大きな瞳を輝かす。